

令和元年度

第2回 防犯ボランティア活性化フォーラム を開催

令和元年12月12日(木)、愛知県産業労働センター(ウインクあいち)において、「令和元年度 第2回 防犯ボランティア活性化フォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、防犯ボランティア団体の課題を洗い出し、解決策を見いだすとともに、防犯ボランティア団体自体やこれを支援する行政、警察がそれぞれ取り組むべき方向性を考える機会とするために開催するもので、自治会や防犯ボランティア団体、自治体職員、警察署員など約150名が参加しました。

<基調講演>

【講師】 東洋大学社会学部社会心理学科教授 桐生 正幸氏(※)

【演題】 「犯罪者プロファイリングの視点から考える地域防犯活動の心得」

【概要】

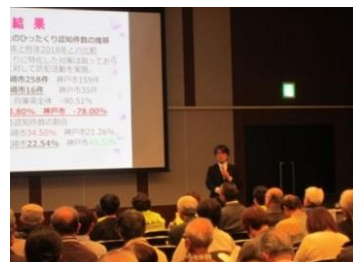


○犯罪を起こそうとする者は、自らの経験や知識を基礎として、リスクが及ばないようにターゲットを狙うなど、合理的に行動するため、詳細なデータにより犯罪者の行動特性を分析した上で、犯罪者の視点から防犯対策を考えることが重要。

○防犯カメラの設置のような物理的な対策、機材の活用には知恵が必要となる。例えば、窃盗犯への対策では、犯行対象、犯行時間、被害金額などの様々なデータから、犯人の行動パターン、侵入家屋とそのエリアの特徴を分析した上で、人の目や防犯カメラの配置を検討していくことが求められる。

○これからは、ネット情報の分析やSNSの活用など、次世代が得意とする方法を導入し、例えば、スマホとランニングと防犯活動を組み合わせた「パトラン」のような活動を普及させ、防犯活動に日常生活の充足感や楽しい要素を取り入れていく工夫も必要。

(※)桐生教授は、「犯罪心理学」が専門で、犯罪者プロファイリングを始め、悪質クレマー、保険金目的詐欺、地域防犯についての研究を行っている。



<防犯ボランティア団体発表>

【発表者】 植田南学区防犯協会(名古屋市天白区) 横地 良和氏

【テーマ】 「温もりのあるわが街 ~自分のまちは自分で守る~」

【概要】

○防犯パトロールの前に、近々の犯罪発生状況や不審者情報をパネルを使用して視覚的に示すことでパトロール員の意欲を高めるとともに、気温や地形等に合わせた無理なく歩けるコース設定を行うなど、参加しやすく、楽しい活動を心がけている。



○「学区の子供は我が子同然」の考えのもと、小学生下校時の見守り、駅前駐輪場・公園の見守り等を通じて、地域の児童と大人との信頼関係を深めているほか、毎年、年末には、地下鉄植田駅前の公園で、町内会、商店街、消防団、PTA、大学生ボランティア等、総勢400名が参加する「歳末防犯大パトロール」を行い、学区全体が一致団結して防犯意識を高めている。

○今後も、若年層への理解を深めたり、住民全体に認知されるための工夫を凝らすなど、無理なくずっと地域に受け継がれていく防犯活動を目指していきたい。

